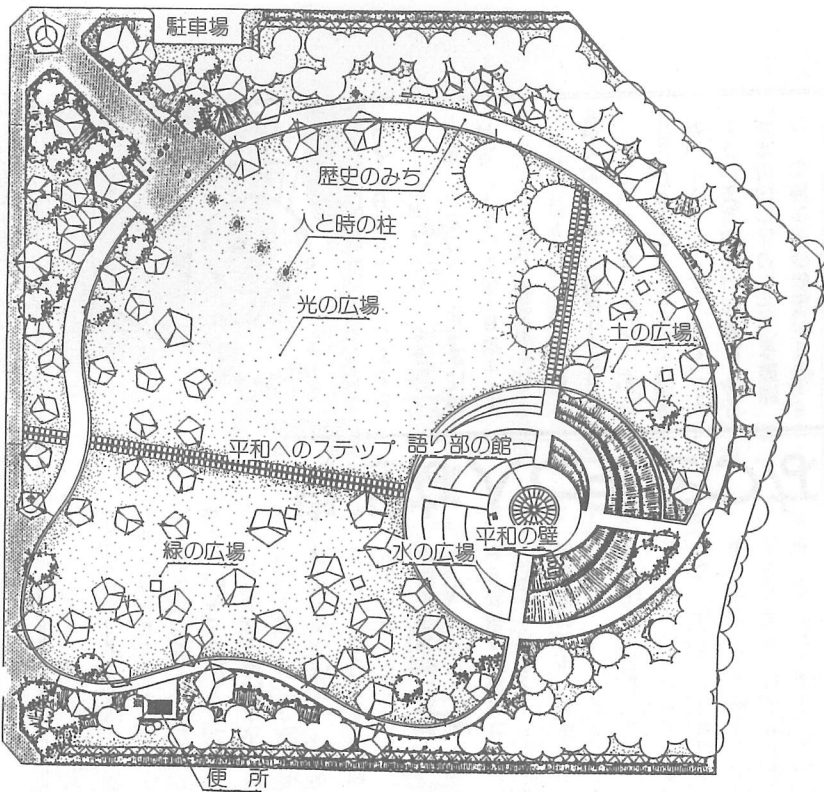
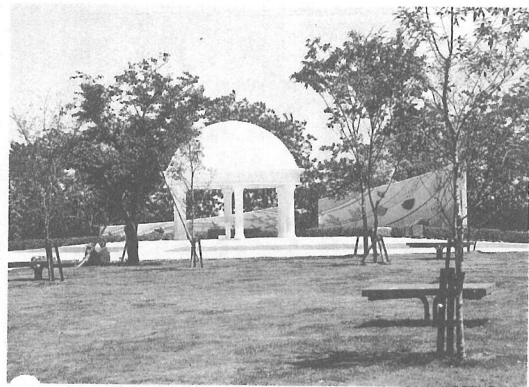


横芝飛行場跡地

栗山平和公園が完成



横芝敬愛高校北側の旧陸軍飛行場跡地に、平成2年から建設を進めていた栗山平和公園が完成し、5月18日、同園を会場に竣功式が行われ、来賓の方々をはじめ、大勢の関係者が完成を祝いました。式典に先だつて行われた實川町長等によるテープカットでは、同時に平和を象徴する純白の鳩が大空に放され、平和公園の名にふさわしいオープニングとなりました。



全体で宇宙を表現 シンボルゾーンには 語り部の館

この公園は、同園敷地(1・1ヘクタール)を含めた周辺が戦時中、旧陸軍の飛行場であったことから、恒久平和の願いと環境の大切さを訴え、4年の歳月と3億8400万円の財源を投入して建設されたもので、月、太陽、そして地球と全体で宇宙の姿を表現しています。

園内中央のシンボルゾーンとなる小高い部分には、戦争と平和について語り合える場所として、語り部の館と名付けられたドームがあります。また、飛行機が飛び立つ様子と、平和へのはばたきをモチーフとした平和の壁の前には、未来永



劫の平和を願って飛行場記念碑が建てられています。

この他、人々の協力により、平和を目指す様子を表わしたモニュメント「人と時の柱」や、土の広場、光の広場、緑の広場などが配置され、それぞれが平和と環境の大切さを表すように造られています。

樹木の寄贈者(敬称略)
成田 久蔵(栗山南部)
銀杏の木

横芝飛行場

昭和13年に旧横芝町から旧上堺村にまたがる約170ヘクタールに旧陸軍が建設したもので、初めは、水戸陸軍飛行学校横芝分校でしたが、後には、仙台飛行学校横芝教育隊となり、80機以上の航空機が置かれ、操縦学生や通信学生たちの教育に当たっていました。

先の太平洋戦争末期には、この飛行場も標的となり、連日のように爆撃を受けるなど、激しい攻撃にさらされ、周辺地域を中心に住民も戦争の災禍を被りました。